4t トラックの荷台に上がり、荷台横に寄せたポテトプランタに肥料と種芋を供給後、降りようとした際にバランスを崩して上半身から落下し、右肩から胸部にかけて強打した。

１．事故の概況

・諸条件及び背景

ほ場で、肥料と種芋を積載した 4t トラックの荷台右側にポテトプランタ（トラクタ直装式、2 畦用）をバックで寄せ、荷台に上がって肥料と種芋を供給していた。

・事故の発生とその経緯

供給終了後、荷台からポテトプランタ側に降りようとした際に、バランスを崩してしまい（足が滑ったように思うとのこと）、上半身から地面に転落し、右肩から胸部にかけての部位を強打してしまった。

年齢・性別：70 台前半（事故当時）、男性
経営状況：畑作及び肉用牛・専業、家族経営
発生日時：4 月下旬　午後 4 時半頃
発生場所：バレイショほ場
傷病名：肺挫傷

２．救命・治療

転落後は痛みを感じながらもそのまま作業を続けたが、午後 7 時半頃から痛みがひどくなり、家族の運転で夜間外来を受診した。CT の結果、肋骨は骨折していなかったが、より内部の細かい骨に損傷があるかもしれないと言われ、コルセットで固定された。その後様子を見ながら植付作業を行っていたが、約一週間後に喀血し、再度救急外来を受診したところ、CT で右肺が真っ黒と言われ、肺挫傷でそのまま約 20 日入院した。その後、一週間ほど自宅で療養したが、経過が思わしくなく、遠方の大学病院に再度約 20 日入院することとなった。退院後は、近隣の総合病院に約 8 ヶ月間通院し、現在は完治している。

３．事故原因

１）被災者に関連する要因　人

- 普段から荷台から降りる際は飛び降りることもあり、高所の危険性の認識が十分でなかった。
- 作業が多忙な時期で、どんどん仕事を進めてしまおうという気になっていたかもしれない、とのこと。

２）機械・用具等に関連する要因　機

- 当該トラックの荷台は 100～110cm 程度と推定（実機は確認できなかったが、身長 170cm の被災者の肩より少し低い程度とのコメントと、一般的な 4t トラックの荷台高さから）され、高い位置での作業と昇降が必要な状況だった（図）。
- 安全に昇降できる荷台用のステップ等は備えられていなかった。
- 荷台上の足場が十分確保されていなかった可能性もある（調査時には実機がなかったため未確認）。

３）作業環境等に関連する要因　環

- 荷台表面が滑りやすい状態だった可能性がある（調査時には実機がなかったため未確認）。

4）被災者以外の人に関連する要因 人

- 複数名であれば、分担して供給作業が行えるため、より落ち着いて行動できた可能性もあるが、実際には１人作業であった。

5）安全管理体制等に関連する要因 法

- 荷台など高所での作業の危険性に関する周知が十分ではなかった。

４．事故防止に向けた対策

1）事故後にとられた対策

- 現在は、より慎重に荷台に昇降することを心がけている。 人

2）その他推奨する対策

- 昇降時は、常に両手・両足のうち３点での支持を維持するなど、焦らず確実な昇降を行う。 法
- 荷台上には作業や移動に十分な広さの足場を確保する必要がある。 法
- 他産業では例え落差 1m でも死亡事故につながるものとして注意喚起されており、農業でも一層の周知が求められる（頭部への被災に備えてヘルメットの着用が望ましい）。 人 法

3）より安全な機械開発や機械利用に向けた課題

- トラック荷台用のステップは様々なものが市販されており、これらを活用し、安全な昇降を行う。 機 法

５．事故現場の状況

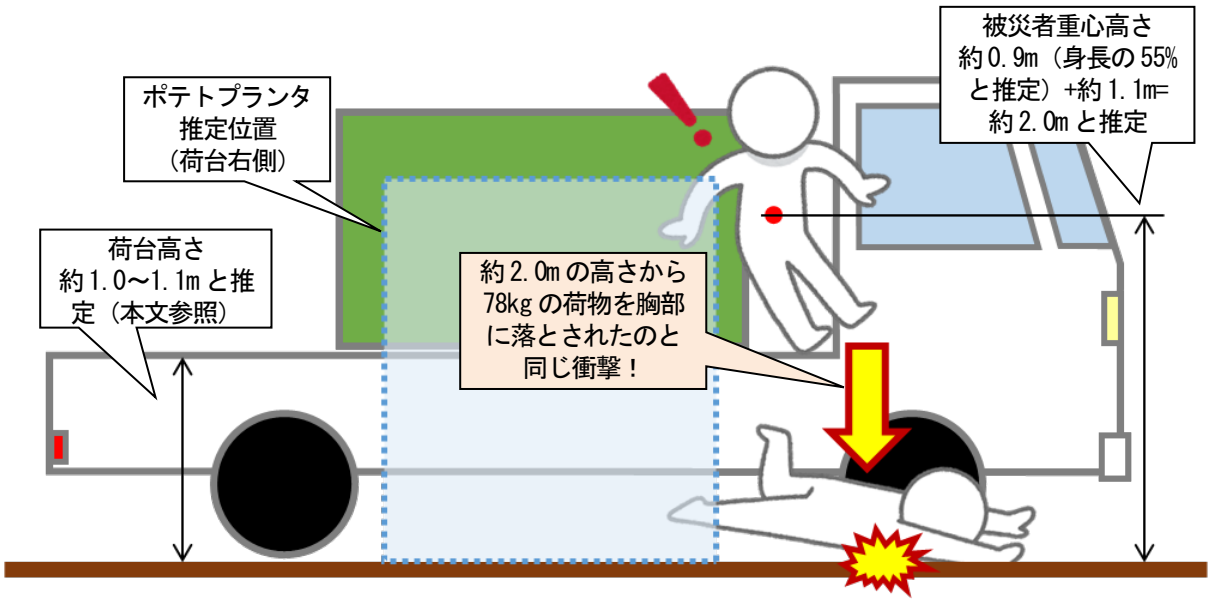

図　トラック荷台からの転落状況（推定を含む）

６．その他の経験等

- 市場で仔牛を引いていた際、スケールの鉄板の一部がめくれ上がっていたためにつまずき、後ろ向きに倒れたところ、鉄柵の横方向に 3 本渡された鉄パイプの全てに上から順番に頭をぶつけ、一瞬気を失った。

- 今回の事故で入院中、隣に同じくトラック荷台から降りた際に足首を骨折して入院してきた人がいた。